

4 ヲ 必要な予防接種

Point

- ・ 出発前に、インフルエンザ、破傷風^{はしょうふう}、麻疹^{ましん}などの予防接種を済ませておく。
- ・ 屋外での活動がある場合の破傷風予防は特に重要
- ・ 子供の頃に受けた予防接種は、効果が薄くなっている可能性がある。
- ・ 抵抗力（抗体）があれば予防接種が不要の感染症もある。医療機関で検査が可能

現場の環境はさまざまであり、屋外での作業や毎日いろんな人と一緒になって活動する機会が多くなると考えられます。ボランティアに行ったものの、現地で流行している感染症にかかって十分な活動ができなかったり、あるいは看病や治療のために現地の人々や医療スタッフに世話をかけてしまった、本来は現地の人達のためのはずの薬品を使うことになってしまった、などのケースも発生することがあります。出発前に予防接種で防げる感染症への準備が必要となります。

予防接種で防げる感染症のうち、災害時に対策が必要なものには、表1のような感染症があります。子供

の頃に予防接種を受けている人も多いため、人によってそれぞれの感染症への抵抗力は違いますが、予防接種を毎年受けていなければ効果が期待できない感染症や、接種してから年数がたつと少しずつ予防効果が薄れてくるものも多いため、自分の予防接種の記録（母子手帳などに記載されています）を確認して、必要な予防接種を受けてから、ボランティアに出発することが必要です。

表1では、予防接種の必要性を低～高で区別していますが、いずれの感染症も現地で感染あるいは発病す

表1 ● 予防接種の必要性

感染症	必要性	予防接種が望ましい人
インフルエンザ	高	最後の接種から6か月以上がたっている場合。特に流行シーズン(11月～翌3月)や流行している場所で活動する人。
破傷風	高	屋外で作業する人。特にがれきや土などで傷のできるような作業をする人で、最後の接種から10年以上がたっている場合。
麻疹	高	接種を受けたことがなく(接種を2回済ませていることが理想的)、かかったこともない人。医療機関で抵抗力の検査ができます。
A型肝炎	中	特に60歳未満の人は、可能な限り接種をお勧めします。
ふうしん すいとう 風疹、水痘(みずぼうそう)、 流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	低	接種を受けたことがなく、かかったこともない人。医療機関で抵抗力の検査ができます。

れば大きな問題となります。現地での流行状況を調べたり、自分自身がこれまで受けた予防接種について確認して、受けていない、あるいは接種を受けてから年数がたっている場合には、抵抗力の検査（抗体価検査）をして、予防接種の必要性を判断することをお勧めします。迷った場合は、多くの医療機関で相談のしてもらえenと思います。また出発前に、自分が住んでいる地域の流行状況にも注意して下さい。自分自身が感染症を現地へ持ち込んでしまうことも避けなければなりません。ボランティアとしての活動期間が長くなるのが予想される場合ほど、どの予防接種の必要性もより高くなります。

喘息や糖尿病など、もともと何か病気を持っている人ほど予防接種で感染症を防いだほうが安心ですが、病気によっては予防接種を控えなければならない場合もあります。また、予防接種を受ける前に抵抗力の検査（抗体価測定）を行って、自分の病気へのかかりにくさを確認すれば予防接種をせずに済む場合もありますので、かかり付けの医療機関でご相談ください。

予防接種は、自分自身を守るためだけでなく、現地の人々や他のボランティアスタッフを守るためにも大切です。しかし予防接種をしたとしても、感染症の発症をすべて防げるわけではないことにも注意が必要です。例えば、破傷風ワクチンを受けていても、土汚れのある材木などで傷ができた場合や、さびた釘などでケガをした場合には、きれいな水で傷を洗って、でき

るだけ早めに医療班や医療機関でみてもらうことが必要です。またインフルエンザなども、はじめは体のだるさや軽いせきなどで始まることも多いですので、特にほこりっぽい作業現場などでは、感染症の始まりなのか、ほこりの刺激でせきがでてきているのか、わかりづらいことも多いです。予防接種を済ませているからといって安心しすぎることはないよう、自分の体調に毎日気を付けていてください。

もっとも大切なことは、体調不良がある場合には活動に参加しないことといえます。現地に入って、すでにボランティアとして活動中はもちろん、出発前に体調不良となった場合には、自分とまわりの人達の両方を守るために、治るまで参加しないという勇気と決断が必要です。感染症は人から人へうつって拡がってゆく病気であり、感染症にかかっている人が無理をして活動を続けることで、現地の人達や他のボランティアスタッフに感染が拡がり、大きな流行になってしまう可能性があります。体力の落ちている人に感染した場合には、生命の危険につながることもあります。

ボランティア活動に参加する際は、必要な予防接種をして行くことで自分自身と現地の人々が守られるということ、また、体調が悪くなったときには治るまで活動に参加しないことも被災地支援のひとつであるということをご理解いただきたいと思います。